

能登半島地震における被災障害者のニーズと現状

ーテキストマイニングを用いた分析ー

○ ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター 氏名 謝 雪こう (009936)

キーワード：障害者被災支援、対人支援、福祉防災

1. 研究目的

本研究は、2023年に発生した能登半島地震における被災障害者のニーズと支援の現状を明らかにし、今後の災害支援策の改善に資することを目的とする。障害者は一般的な災害支援から漏れがちであり、そのニーズに特化した支援が必要である。本研究は、以前発生した災害の教訓を生かし、能登地震に被災した障害者が避難時に直面した問題点をまとめ、地震発生時直後から避難所に入るまでのニーズを考察することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、テキストマイニングを用いた質的研究手法を採用し、能登半島地震に被災した障害者が避難時のニーズを明らかにするためのインタビュー調査を行った。調査対象は、能登町の福祉施設を利用する障害者11名（男性4名、女性6名、教えないと答えた者1名）からデータを収集した。半構造化インタビューにより収集したテキストデータを、テキストマイニングソフトウェアを用いて分析し、頻出語句の抽出や関連性の分析を行った。

3. 倫理的配慮

本研究においては、調査対象者から事前に書面および口頭でインフォームド・コンセントを取得し、データの匿名性を確保した。また、インタビュー中に自由に参加を中止できること、参加中止による不利益がないことを説明した。収集されたデータは研究目的以外に使用せず、適切に管理した。なお、本報告に関連して開示すべきCOI関係にある企業等はない。

4. 研究結果

インタビュー調査の結果、被災障害者が直面する主なニーズとして以下の点が挙げられた（共起ネットワーク図はスライドに掲載する）：

- ① ポータブル電源とガソリンの不足：多くの被災者が電動車椅子の充電や、医療機器の使用に困難を抱えていた。特に停電時の電力供給の確保が重要な課題となった。
- ② バリアフリーの介助用具：避難所においてバリアフリーの介助用具、特に車椅子用スロープや視覚障害者用の誘導具が不足しており、これが障害者の移動や生活の質に影響していた。
- ③ 個室の強い希望：プライバシー確保のために個室を希望する声が多く、これが避難所を

利用しない理由の一つとなった。個室が確保できないため、自宅で避難生活を続けた障害者が多く見られた。

- ④ 避難所の利用率低下：避難所のバリアフリー設備や個室の欠如が原因で、障害者が避難所を利用せず、自宅で水道や電気が使えない状態で避難するケースが多かった。

5. 考察

研究結果から、被災障害者に対する支援において、物理的な支援物資だけでなく、個々のニーズに応じた対応が求められることが明らかになった。特に、ポータブル電源やガソリンの確保、バリアフリーの介助用具の供給、プライバシーを確保できる個室の設置が重要である。また、障害者が避難所を利用しやすくするためのバリアフリー対応の強化や、個室の確保が、今後の災害支援策において優先されるべき課題であることが示唆された。

本研究は、テキストマイニングを用いた質的分析によって被災障害者のニーズを明らかにし、災害時の支援策改善のための具体的な指針を提供するものである。これにより、障害者の生活の質向上と、より包括的な災害支援が実現することが期待される。

5. 参考文献

- 1) Noor D. 2011. Geologi Lingkungan., Yogyakarta: Graha Ilmu.
- 2) Fika N *, Prima D, Linda W. 2018. Disaster Risk Reduction and Emergency Preparedness for Children With Autism in Facing Earthquake Disaster in Yogyakarta, JMMR (Jurnal Medicoeticolegal dan Manajemen Rumah Sakit), 7 (1): 52-5, DOI: 10.18196/jmmr.7156
- 3) 東北地方太平洋沖地震に関する報告（日本政府、2011年）
- 4) 熊本地震に関する報告（日本政府、2016年）
- 5) 北海道胆振東部地震に関する報告（日本政府、2018年）
- 6) Laura MS. 2015. World Report on Disability, Intellectual Disabilities, and Disaster Preparedness:
- 7) Costa Rica as a Case Exampl, Journal of Policy and Practice in Intellectual Disabilities, 12-2, 138-146, DOI: 10.1111/jppi.12116
- 8) 江原勝幸, 2006, 福祉避難所における災害時要援護者の支援に関する考察, 静岡県立大学短期大学部 20-(3)
- 9) 毎日新聞「計画策定1割満たず」2006.12.3.
- 10) 毎日新聞「7割土砂の犠牲」2006.7.25
- 11) 東京新聞「大声で走り回り…障害者の避難に家族が気疲れ、車中泊2週間、避難所4ヶ所転々「もっと早く個室がほしかった」